

【B 島原市-島原エリア Shimabara City-Shimabara Area】



雲仙岳災害記念館から(平成新山と眉山)

島原市-島原エリアでは、“北東面～東面の雲仙岳”が眺望できます。小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。雲仙岳の山岳信仰が盛んであった往時をしのばせるものとして、温泉神社の分社が2社(三会温泉神社・温泉熊野神社)、現存しています。山並みとしては、多くの山々が見えますが、奥にある最高峰の平成新山、そして手前海側にある眉山(旧名:前山)の存在感は抜群で(両山の山頂は当エリア内)、両山の位置関係(どちらが左側に見えるか等)は眺望スポットによって変わります。

眉山は、島原の町のバックに屏風のようにそびえています(↑)、江戸時代の1792年、普賢岳(奥山)の噴火活動に伴う地震により、山体の海側が崩壊しました。崩壊土砂は島原の町を越えて海へと流れ込み、大津波が対岸の肥後国との間を往復して多くの犠牲者が出ましたが(いわゆる“島原大変、肥後迷惑”)、沿岸部には九十九島(つくもじま)の景観が生まれ、街中に湧水が湧き出しました。平成新山は、普賢岳の平成噴火(1990～1995年)によって誕生した最高峰です。噴火の過程で多くの被害が発生しましたが、雲仙天草国立公園の新たなシンボルになっています。

雲仙岳東麓に沸く島原温泉は、半島西方の橘湾の底にあるとされる雲仙岳のマグマだまりから上昇してくる火山ガスが地下水と出会い、はるばる島原まで移動しつつ形成される低温の重曹泉・炭酸泉で、雲仙岳の火山の恵みと言えます。

なお、江戸時代初期の“島原・天草一揆”の際には、当時の三会村・島原村・安徳村・中木場村の村民(合計)の約半数が一揆に参加したとされています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、島原エリアを旅してみませんか？

- 島原エリアの観光情報はこちら ⇒ 株式会社島原観光ビューロー <http://www.shimabaraonsen.com/>



島原エリア沖合のフェリー船上から(東から)



島原鉄道の島原駅構内から(眉山、平成新山)



雲仙岳災害記念館から(“いのりの灯火”の際)